

あなたの地区の接続率

%

裏面に参考データが
ありますのでご覧下さい。

ぐんま集排水だより



永井・入原地区 处理施設全景

永井・入原地区について

昭和村は利根郡の最南端にあって赤城山麓北西部に位置し、東西10.8km、南北9.8kmで扇状の形をし、雄大な土地の上に実り豊かな耕地が広がる農業中心の村です。また、利根・片品川が合流する河岸段丘沿いに展開した各地域の歴史は古く、数々の古墳が発見されるなど伝統と文化の薫りあふれる村です。

永井・入原地区は、村南西部に位置し、県道渋川下久屋線沿いに広がる永井地区と入原地区の2地区を処理する地区です。過去は畑作を中心とした農業地帯でしたが、近年、宅地化が進み、非農家との混住が進んでおります。処理水は処理場西側にある利根川に直接放流しています。

事業への取り組みについて

永井・入原地区は、村で4ヵ所の計画のあつた農業集落排水事業の4番目として、平成11年度に国の採択を受けました。計画戸数241戸、同人口960人、同處理水量323m³/日で進められ、平成16年、総事業費13億3千1百万円で完成し供用開始に至りました。

汚水処理場の処理方式は、連続流入間欠ばつ氣方式(フアリュース-メル型)で、汚泥は脱水処理後に県外のコンポスト施設に搬出し、肥料化しています。

処理施設を訪ねて 昭和村 永井・入原地区

今後の課題等について

村は、生活排水処理を農業集落排水事業、合併浄化槽事業の2事業により推進しております。永井・入原地区を含む4つの農業集落排水事業の処理区域以外は基本的に合併浄化槽の市町村設置事業を進めています。村は、利根・片品川に展開する比較的の住居が集まつた地域と耕地の中に点在する高原地域では、その集落形態が大きく異なるからです。

農業集落排水事業地域、合併浄化槽地域での意見も目立ちます。しかし、身近な環境問題は、住民意識の高揚です。高齢化が進み、「今まで良い」「料金を払うのは負担だ」などの意見も目立ちます。しかし、身近な環境問題である汚水処理の問題が、住民共通の課題であること、「一人一人が認識し、負担を払ってでも排水をきれいにする」との意識を住民が持てるよう共通の意識を持ち、今後も事業の推進を行い接続率向上を目指して行きたいと思います。これからもずっと美しい実り豊かな農村でありますように。



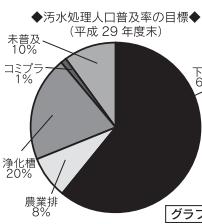
農業集落排水事業の動向について

群馬県県土整備部下水環境課

県では、「はばたけ群馬・県土整備プラン」(以下「県土整備プラン」といふ)において、平成29年度末の汚水処理人口普及率の目標を90%と掲げて平成20年度に汚水処理人口普及率「ステップアッププラン」という。)を策定し、平成21年年度から平成25年度までの5箇年間、下水道や浄化槽そして農業集落排水の汚水処理事業を行っていく市町村に対して積極的に支援していくことをとしています。

このような状況の中で、農業集落排水に係る最近の動向について、何点か紹介したいと思います。

1 新たな地区の推進



そのため、県としても「ステップアッププラン」による支援を行つてきたいと考えています。そのため、県としても「ステップアッププラン」による支援を行つてきたいと考えています。

平成20年度に見直しした「群馬県汚水処理計画」では、集合処理から個別処理(浄化槽)へのシフトが多くの市町村で見られ、下水道や農業集落排水の集合処理区数は77地区減少し、222地区(表-1)となりました。その減少の内農業集落排水は62地区と大幅に減少し、その結果、農業集落排水の未着手地域は61地区となりました。

「県土整備プラン」における本事業の受け持つ割合は8%(グラフ-1)と高くはありませんが、ある程度、家庭のまどまりがあるエリニアにおいて、計画的に整備を進めしていくことが必要です。

本事業は経済的・効率的であり、今後も農業集落排水で整備を行うとする地区に対しては、事業の推進を行いつつあります。そのため、今後重きを置いています。

(表-3)
低コスト型農業集落排水施設
更新支援事業実施予定表

市町村名	処理場数	事業費(千円)	工 期
渋川市	15	35,000	H21~H23
太田市	8	21,000	H22,H23
昭和村	4	13,000	H22
計	27	69,000	

※事業費等は予定

(表-2)完了年度別地区数

項目	地区数
S50~S63	4
H元~H10	53
H11~H20	45
小計	102
実施中	12
未着手	61
計	175

4 おわりに

以上とのおり、農業集落排水の最近の動向について紹介してきました。昨年の行政刷新会議が行った事業仕分けでは、農業集落排水は「実施は自治体の判断に任せるとされましたが、従来の補助金は新たに創設された農山漁村地域整備交付金」の中に入組み込まれ、存続することになりました。また、政権交代により公共事業費削減の動きが大きくなっていますが、地域が要望する公共事業は更新も今後ますます必要となります。

新規的な機能強化対策の地区は、これまでの整備を実施する市町村に対して積極的に支援を行つていく考えでいます。

沼市において、既に行われている事例です。魚沼市では、農業集落排水の整備を18地区で行つていますが、その内7地区で隣接する農業集落排水施設どうしを接続することとし、既に2地区が接続しています。また、その内4地区が下水道に接続することとし、既に2地区を流域下水道に接続しており、合わせて11箇所の処理場を減じる予定です。今回現地を見学した小平尾・雁坂下地区では、機能強化対策で接続による整備を実施していました。

2 ストックマネジメント (機能強化対策の重要性)

農業集落排水施設を多く有している市町村については、個々の施設の劣化状況を知ることができ、また、対策が必要な時期や工法、それに必要なコストも把握ができるので、長期的な視点に立ち、計画的な整備・更新を図る上でとても有効なものだと考えています。

農業集落排水施設を多く有している市町村については、前橋市と渋川市では既に「群馬県汚水処理計画」に位置づけており、渋川市では接続に向かっており、渋川市から、施設が老朽化した場合には下水道に接続作業を開始しております。①農業集落排水施設の下水道への接続②新たな地区を既存の農業集落排水施設へ接続③隣接する農業集落排水施設どうしの接続

①については、前橋市と渋川市では既に「群馬県汚水処理計画」に位置づけており、渋川市では接続に向かっており、渋川市から、施設が老朽化した場合には下水道に接続したいという意見がありました。なお、この実施に当たつては、施設の財産的な問題、下水道法の手続きなどが必要となりますので、早期に相談してください。②については、人口減少等の理由により既存処理場に処理能力に余裕がない場合において、隣接する新たな地区で整備する管路施設をこれに接続しようとするとするものです。市町村にとどては、既存処理場の有効利用が図られ、維持管理費の低減にもつながります。また、処理場建設のコストも不要となるので、とても有効な方法と思われます。

従来のように管路施設と処理場のセットの整備でなく既存処理場の有効利用という方法については、新たな地区を推進する上で有効な方法と

考いています。③については、昨年11月に開催された本協議会の現地研修会で訪れた魚沼市において、既に行われている事例です。魚沼市では、農業集落排水の整備を18地区で行つていますが、その内7地区で隣接する農業集落排水施設どうしを接続することとし、既に2地区が接続しています。また、その内4地区が下水道に接続することとし、既に2地区を流域下水道に接続しており、合わせて11箇所の処理場を減じる予定です。今回現地を見学した小平尾・雁坂下地区では、機能強化対策で接続による整備を実施していました。

3 新たな動き

つながる未来のために

昭和村川額在住 会社員

私の住む昭和村は、農業中心の村です。村は利根・片品川沿いに展開する比較的住居の多い集落地域と赤城山麓地域に位置する耕作地帯で土地の利用形態が大きく異なります。

昭和30年代までの農業は小規模で、集落周辺

で行う農業であつたことから、米作りや野菜類などの農業が中心となつておりました。近年の農業機械化や大規模化による農業形態の変化により一変し、農業の中心は高原地域での大規模農業に移行して行きました。

そして、同時に各世帯の生活環境も徐々に変化して行きました。私が中学生のころ、家は浄化槽(単槽)が入つており、水洗トイレを使用していましたので、村で農業集落排水事業を実施する、と聞いたときには何をするのか良く理解できませんでした。

村は、汚水の現状についてや、事業には住民の全員参加が必要であること、また、個人ごとに費用がかかることなどが説明され、事業着手に至りました。最初の何年かは、建設期間での事業効果もありません。そして、何年か経過し、事業開始となるとその効果が目に見えて現れて来たことを強く覚えています。なによりも、家周辺のいろいろな臭いが少なく衛生的になりました。

これまでTVで水質汚染の大きな原因は家庭排水である、などの話を聞いてもピンときませんでしたが、これを自分で見て実感できました。こんな小さな村の排水ですが、この積み重ねが村全体、県・国レベルで整備されることにより、環境問題が

改善されるのだな、と強く実感したものでした。

こうしてみると、環境問題はTVの問題ではなく、身近なところにある、ということを強く感じました。通勤の行き帰り、車で走つていると道ばたに落ちてつる「ゴミ」が気になりますが、車から出してしまえばいい、という発想は、排水にもつながるものですね。「ゴミ」も、污水も自らの地域で処理する、そんな積み重ねがきれいな明るい未来につながるのではないか、と感じる今日このごろです。

平出地区農業集落排水事業組合

組合長 新井 章

私たちの住む平出地区は、沼田市白沢町(旧白沢村)の地区で50戸あまりの小さな集落です。

今から20数年前、当時、生活排水は河川や用水路そのまま流れ込んでいました。生活様式の多様化により量は大幅に増加し、農産物に被害を与えたり、水路から悪臭を発したりして、集落の環境を汚染して地域の問題となっていました。

そのような中、平出地区農業集落排水処理施設は、旧白沢村初の下水処理施設として平成元年に事業が始まり、平成5年に完成、供用開始されました。当時、地域で下水道組合を立ち上げ、行政、住民が一体となって繋ぎ込みを促進した結果、現在の供用率は約98%となっております。これも、住民の事業ならびに環境に対する意識の高さだと感じております。おかげで水質汚染の問題は改善され、快適な生活環境をもたらしました。



「水、よみがえれ! キャンペーン」が行われました。

平成21年12月5日(土)、県民に水環境を守ることの大切さを伝え、下水道・農業集落排水・浄化槽をPRするためのイベント「水、よみがえれ! キャンペーン」が、群馬県下水環境課の主催で行われました。

5回目となる今年は、会場を伊勢崎市の「ベイシアIS伊勢崎」に移し、協賛団体と協力企業が下水道・農業集落排水・浄化槽の役割や仕組みなどを模型や写真パネルを使用しながら紹介したところ、約330名の入場がありました。

また、FMぐんまによる公開生放送では、汚水処理テーマに女優の益戸育江(高樹沙耶)さん、伊勢崎市の五十嵐清隆市長、環境カウンセラーの下城茂夫さん、群馬県下水環境課の茂木恭成課長の4名でのトークショーも行われました。

※公開生放送終了後に、絵画コンクールの表彰式を行いました。

群馬県農業集落排水事業連絡協議会 役員紹介

平成21年6月の第19回通常総会において下記の通り役員が選任されました。
(任期2年)

会長 高山 仁一(留任)／前橋市
副会長 大橋 博(留任)／館林市
吉野 忠男(新任)／沼田市
監事 金井 郁治(留任)／渋川市
新井 巳代次(新任)／高崎市

平成20年

5月・監査会及び監査

・役員会

6月・第18回通常総会並び研修会(前橋市内)

7月・全国農業集落排水事業推進協議会第19回通常総会(東京都)

・農業集落排水事業にかかる情勢報告

6月～10月・農業集落排水に関する絵画コンクールの実施

9月・「ぐんま集排だより」編集委員会

10月・農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式(イオンモール太田)

・農業集落排水事業推進研修会(東京都)

11月・現地研修会(栃木県佐野市、小山市「乾燥汚泥と広域圏による堆肥化施設」)

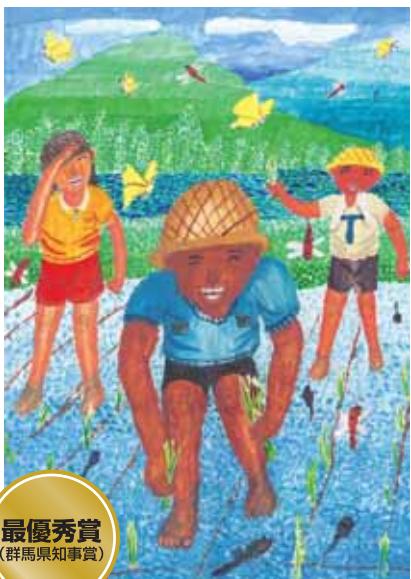
3月・機関誌「ぐんま集排だより」(13号) 41,500部発行

平成21年

平成20年度 事業報告

平成20年4月
～平成21年3月

絵画コンクール作品紹介



最優秀賞
(群馬県知事賞)

伊勢崎市立赤堀小学校
5年生 大屋 拓夢

きれいな空気と水で 楽しい田うえ

緑がたくさんあってきれいな所にこん虫や生物が生き生きと生活するかんきょうをつくりたいと思った。



上毛新聞社賞

館林市立第四小学校
4年生 笠原 聰加

畑で水遊び



群馬テレビ賞

中之条町立名久田小学校
4年生 小河 真輝

ぼくの家の田んぼ

ぼくの家のまわりには田んぼがたくさんあります。おじいちゃんは、米を作っています。おじいちゃんが作ったお米は、とてもおいしいです。これもきれいな水があるからだなと思っています。とんぼもたくさんとんでいました。



エフエム群馬賞

館林市立第九小学校
2年生 長島 史苑

田んぼとしらさぎ

田んぼの中にいるしらさぎがとてもきれいでかわいいかったから。



連合会長賞

中之条町立中之条小学校
4年生 陽田 岳

田んぼでカエルとり

田んぼの横の水路には、きれいな水が流れていてカエルやちょうやトンボなどいろいろな生き物がいて、するのがとてもたのしい。



協議会長賞

渋川市立渋川西小学校
4年生 増田 夢穂

ホタルのダンス

田んぼや川の近くでホタルを見たので、それが思い出になってこの絵をかきました。

優秀賞

井上 幸恵 伊勢崎市立三郷小学校 1年生 ざりがにもおさんば
村山 涼希 渋川市立金島小学校 5年生 田んぼ
渡邊 陽香 伊勢崎市立殖蓮小学校 3年生 妹とザリガニとり
岡部 優花 館林市立第四小学校 4年生 ざりがにつり
黒岩 那月 中之条町立中之条小学校 4年生 魚がすむ川
山口 裕真 前橋市立大室小学校 6年生 水の生物

佳作

秋山 実保 吉岡町立駒寄小学校 3年生 きれいな水と田んぼ
林 萌香 渋川市立長尾小学校 4年生 たんぼにうつる夏の宝石
今泉 将吾 渋川市立長尾小学校 5年生 楽しい釣り
桑原 まなみ 伊勢崎市立あずま南小学校 5年生 水田と畑と自然
林さおり 中之条町立中之条小学校 4年生 田んぼのネコバス
高野 日那 伊勢崎市立殖蓮小学校 2年生 たうえ
清水 恵綾 渋川市立長尾小学校 1年生 田植えをしている人
入内島 靖瑞 中之条町立沢田小学校 4年生 よみがえった自然！！
山田 かほ 中之条町立沢田小学校 4年生 とんぼとり
関 順人 中之条町立沢田小学校 4年生 水と生物

絵画コンクールについて

農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に、21世紀を担う子供達の視点から環境へのメッセージとして、絵画コンクールを開催したところ、6市町村、20小学校から252作品もの応募がありました。

審査については、専門知識者による事前審査のあと、本協議会役員、代表幹事、群馬県、土地改良連合会の関係者が審査し、最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞、優秀賞6作品及び、佳作10作品を決定しました。

絵画コンクール表彰式開催

最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞の表彰式を平成21年12月5日(土)に伊勢崎市「ベイシアIS伊勢崎」4階ホールで開催しました。

表彰式は、同日開催された「水、よみがえれ!キャンペーン」の公開生放送後に、エフエム群馬のアナウンサーの進行により受賞者へ賞状授与と記念品の贈呈を行いました。

家庭での心がけ

- ◆洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆台所の調理くず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない



群馬県の汚水処理の現状

◆汚水処理人口普及率 70.0%

(農業集落排水、下水道、合併処理浄化槽
供用人口1,405,438人/県人口2,008,842人)

全国普及率 84.8%

全国順位 37位 (47都道府県中)

◆農集排処理人口普及率 6.1%

(集排供用人口123,309人/県人口2,008,842人)

◆農集排処理人口接続率 74.1%

(接続人口91,360人/集排供用人口123,309人)

(H21.3.31現在)